

第一三共 Medical Communityを登録 または二次元コードよりアクセス 

〈ログイン画面〉   

〈サイトトップのナビゲーションエリア〉

登録したメールアドレスとパスワードでログインまたはm3.com会員の医師の方のみm3.comのアカウントでログイン。右上にある「Web講演会」をクリックしてください。

Web講演会の画面を下にスクロールして「カレンダー」をクリックしてください。

〈ログイン画面〉の右上
「新規会員登録」「ログイン」はこちらから

 カレンダー

9月23日で検索すると講演会情報が表示されます。

第一三共 Medical Communityでは担当MRに連絡できます

ログインいただくと、医師の方は担当MRに直接ご連絡いただけます。営業時間外や休日にご連絡いただいた場合は、翌営業日以降のお返事とさせていただきます。



アナライザーシステムのイメージ



講演スライド画面

選んで
ボタンを押せば

グラフに!

アンケート自動集計システム「アナライザーシステム」は視聴中のアンケートを自動集計するので集まったアンケート結果をリアルタイムに見る事ができます。また、グラフは棒グラフなど見たいグラフで表示する事ができます。

Daiichi-Sankyo Next Generation Forum ～ Generalist or Specialist ～



2023年9月23日[土] 15:00-17:30

多彩なテーマから自由に選べるオンライン講演会 ～今知りたい情報がここにある～

次世代の医療を担う先生方のニーズに合わせて診断・治療からキャリア形成まで幅広いテーマを組み合わせた講演会です。

双方向コミュニケーションによる演者との一体感を醸成

当Web講演会ではアナライザーシステムを使用します。
詳細は裏面をご参照ください。

Daiichi-Sankyo Next Generation Forum

診断・治療

キャリア形成

チャンネル1

チャンネル2

チャンネル3

チャンネル4

15:00
〜
15:05

講演1

15:05
〜
15:45

ガイダンス

乳がんの腫瘍免疫微小環境と
宿主免疫応答
~Bedside-to-bench-to-bedside~

演者 京都大学医学部附属病院 乳腺外科 病院講師

河口 浩介 先生



河口 浩介 先生

木を観て森も観る、
生活習慣病の
ロジカルアプローチ

演者 木町通クリニック

森本 玲 先生



森本 玲 先生

今から始めよう!
最新の片頭痛治療:
これさえ知ればできる!

演者 信州大学医学部 脳神経外科学教室 准教授 兼
脳血管内治療センター 副センター長

花岡 吉亀 先生



花岡 吉亀 先生

プレゼンの極意
—これぞ山下流—

演者 公益財団法人心臓血管研究所 名誉所長

山下 武志 先生



山下 武志 先生

休憩 10分

講演2

15:55
〜
16:35

乳がん治療と
緩和ケアの両立

演者 聖隷佐倉市民病院 乳腺外科 副部長

木谷 哲 先生



木谷 哲 先生

心房細動のレキシ
~古典から最新治療まで
一気に振り返る~

演者 小倉記念病院 循環器内科 副部長

福永 真人 先生



福永 真人 先生

病態別アプローチで考える
痛みの診断と治療

演者 札幌医科大学医学部 麻酔科学講座 講師

澤田 敦史 先生



澤田 敦史 先生

臨床研究の進め方
~ビギナーが失敗しない為に~

演者 医療法人博善会 理事 /
順天堂大学 革新的医療技術開発研究センター
特任准教授

長尾 雅史 先生



長尾 雅史 先生

休憩 10分

講演3

16:45
〜
17:25

非小細胞肺癌の内科治療を
勉強するなら今でしょ!

演者 大阪国際がんセンター 呼吸器内科 副部長

田宮 基裕 先生



田宮 基裕 先生

誰もが知るべき脳梗塞治療の
最新エビデンスと初期対応

演者 日本医科大学付属病院 脳神経内科 講師

鈴木 健太郎 先生



鈴木 健太郎 先生

骨粗鬆症の治療戦略
~診断・薬物治療のポイント~

演者 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科
整形外科 講師

千葉 恒 先生



千葉 恒 先生

30分で語る! 臨床に必要な
統計の知識(論文読み込み編)

演者 慶應義塾大学 循環器内科 専任講師

香坂 俊 先生



香坂 俊 先生

講演1

乳がんの腫瘍免疫微小環境と宿主免疫応答 ~Bedside-to-bench-to-bedside~

15:05-15:45



京都大学医学部附属病院 乳腺外科 病院講師 **河口 浩介** 先生

乳がんは、多様な腫瘍免疫微小環境を形成し、これらの微小環境は分子生物学的特徴とも関連し、治療戦略において重要な要素となる。腫瘍免疫微小環境は、全身性の宿主免疫応答とも密接に関連し、複雑なネットワークを形成している。免疫療法の効果と循環免疫プロファイルや腸内細菌叢などの全身性の宿主免疫応答との関連性がその証拠の一つである。これら複雑かつ多面的な現象を解明するためには、患者の観察から研究問題を立て、基礎研究で解明し、臨床に適用する「Bedside-to-bench-to-bedside」のアプローチが極めて重要である。本講演では、乳がん免疫療法の現状と未来展望を、Physician Scientistとしての観点から乳がんの腫瘍免疫微小環境と宿主免疫応答について理解を深めることを目的とする。

ご略歴

2006年3月	香川大学医学部医学科 卒業	2016年4月	京都大学医学部附属病院 乳腺外科 医員
2006年4月	日本赤十字社和歌山医療センター 初期研修医	2016年10月	ハーバード医科大学 腫瘍生物学 研究員・マサチューセッツ総合病院 放射線腫瘍生物学部門 研究員
2008年4月	京都大学医学部附属病院 乳腺外科 専攻医	2018年4月	日本学術振興会 海外特別研究員
2009年4月	大阪赤十字病院 外科 医員	2018年9月	京都大学医学部附属病院 乳腺外科 助教
2016年3月	京都大学大学院医学研究科 博士課程 修了	2023年7月	京都大学医学部附属病院 乳腺外科 病院講師

講演2

乳がん治療と 緩和ケアの両立

15:55-16:35



聖隷佐倉市民病院 乳腺外科 副部長 **木谷 哲** 先生

進行再発乳がんの治療の進歩により、予後の延長が得られてきている。一方で、進行再発乳がんの罹病期間が長期となり、がん患者が直面するさまざまな苦痛に対して緩和ケアを提供しながら、がん治療を行う場面も多くなってきている。わが国では緩和ケアに従事する専門医数は未だ十分とは言えず、がん治療医が緩和ケアで主たる役割を担う場面も少なくない。しかし、緩和ケアの全てをがん治療医が抱え込むことはあるべき姿ではない。科の枠を超えた診療、多職種スタッフからの介入を含めたチーム医療が肝要であり、在宅での緩和ケアのためには地域連携も大きな役割を担う。本講演では、乳がん治療と緩和ケアの両立について問題提起を交えながら考えていきたい。

ご略歴

2000年3月	東京大学医学部医学科 卒業	2008年1月	国家公務員共済組合連合会 東京共済病院 乳腺科
2000年5月	東京大学医学部附属病院 放射線科入局	2009年4月	国家公務員共済組合連合会 東京共済病院 乳腺科医長
2001年4月	埼玉医科大学総合医療センター 放射線科、その後外科	2015年4月	社会医療法人博愛会 相良病院 乳腺科・放射線治療科・緩和ケア科
2002年4月	国家公務員共済組合連合会 東京共済病院 外科	2018年7月	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院 乳腺外科主任医長
2005年4月	埼玉医科大学総合医療センター 放射線科 助教	2020年10月	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院 乳腺外科副部長

講演3

非小細胞肺癌の内科治療を 勉強するなら今でしょ!

16:45-17:25



大阪国際がんセンター 呼吸器内科 副部長 **田宮 基裕** 先生

近年、肺癌治療は急速に開発されてきており、肺癌薬物治療の治療成績は向上し、進行期の非小細胞肺癌患者でも長期生存が期待できるようになった。薬物療法といっても殺細胞性抗癌剤・分子標的薬・免疫療法も様々な種類があり、その使い分けや副作用対策を中心に日々議論されている。また、治療薬選択の決定にあたり、PD-L1染色を中心とした様々なIHCや遺伝子変異診断は必須であり、呼吸器内視鏡手技も発展してきている。診断においては、今出ている手技を押さえ、診断につなげる為のコツと知識をまとめる。また、薬物療法は、個々の症例に応じた治療が必要である。有効性のデータのみならず、有害事象が患者の生活や仕事などに及ぼす影響など、医学的エビデンスだけでなく患者の個別背景や価値観・意向を理解した上で、医療者と患者が協働で最善の選択を探る考え方が重要である。本講演では、薬物療法の押さえておきたい基本的な情報をまとめる。

ご略歴

1997年3月	大阪府立三国丘高等学校 卒業	2016年4月	大阪府立成人病センター 呼吸器内科 診療主任
2004年3月	奈良県立医科大学 医学部 卒業	2017年4月	大阪国際がんセンター 呼吸器内科 医長
2004年6月	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 初期研修医	2020年4月	大阪国際がんセンター 呼吸器内科 副部長
	2006年4月 国立病院機構 大阪南医療センター 内科後期研修医		
	2008年4月 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 肺腫瘍内科 医員		
	2012年4月 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 肺腫瘍内科 診療主任		

講演1

木を観て森も観る、 生活習慣病のロジカルアプローチ

15:05-15:45



木町通クリニック **森本 玲** 先生

高血圧症や2型糖尿病に代表される生活習慣病の診療において第一の介入として、その原因となっているライフスタイルの修正が求められます。一方で、その真の原因はライフスタイルになく、内因性の要因が潜在していることもよく経験されます。ないしは、その双方に原因が求められることもあるでしょう。医療の個別化が求められる昨今、生活習慣病の診療においてこそ、個々の病態を的確に掴み、ロジカルな介入と患者様に寄り添う姿勢が、将来のイベントリスク低減に繋がるはずです。本講演では、そんなアプローチをオーディエンスの先生方と一緒に探って参りたいと思います。

ご略歴

2002年3月	東北大学医学部 医学科 卒業	2009年11月	東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科 助教
2008年3月	東北大学大学院 医学系研究科 博士課程 修了	2017年12月	東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科 講師
2002年5月	古川市立病院(現 大崎市民病院)内科	2019年4月	東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科 准教授
2008年4月	東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科 医員	2022年10月	木町通クリニック 開院

講演2

心房細動のレキシ ~古典から最新治療まで一気に振り返る~

15:55-16:35



小倉記念病院 循環器内科 副部長 **福永 真人** 先生

不整脈の中で最もコモンな疾患である心房細動。人類とその不整脈の戦いの歴史には多くのドラマがあり、全米は泣かないにしても”全俺”は泣いてしまうかも。心房細動はいつ見つかри、どのように治療されたのか? 今後どう付き合っていくべきなのか? 治療は抗不整脈薬なのか?カテーテルアブレーションなのか?抗凝固療法だけでいいんじゃないの?出血リスクが高い人はどうするのか?様々な疑問がある中で、歴史を紐解きながら視聴者と一緒に整理し、最後に結論は出ないまでもなんとなく一筋の光が見える、そんな講演になればいいなと思います。

ご略歴

2006年	長崎大学医学部医学科 卒業	2015~2017年	EP Fellow in IKEM (Institute for Clinical and Experimental Medicine), ブラハ、チェコ共和国
2006~2008年	小倉記念病院 初期研修医	2017年	小倉記念病院 循環器内科 医長
2008~2011年	小倉記念病院 循環器内科 後期研修医	2018~present	小倉記念病院 循環器内科 医長
2011~2015年	小倉記念病院 循環器内科 医員		小倉記念病院 循環器内科 副部長

講演3

誰もが知るべき脳梗塞治療の 最新エビデンスと初期対応

16:45-17:25



日本医科大学付属病院 脳神経内科 講師 **鈴木 健太郎** 先生

脳梗塞の超急性期治療は、tPA静注療法と血管内治療の確立により、大きく変貌を遂げている。また、この10年でも治療適応は大きく変化しており、外来や救急に関わる医師は、その対応方法についてブラッシュアップする必要がある。本講演では、最新の脳梗塞診療における治療に関するエビデンス、患者を診た際の対応方法に関して、研修医や専修医、専門外の先生方にすぐに活かして頂くことを目指して解説する。また、小生は脳神経内科医として血管内治療に携わっており、現在将来に関して悩んでいる研修医の先生がいれば、是非聴講していただき、参考にして頂ければと思う。

ご略歴

2007年3月	日本医科大学 卒業	2011年8月	荏原病院 神経内科	2021年10月	日本医科大学付属病院 脳神経内科 講師
2009年3月	日本医科大学付属病院 初期臨床研修 終了	2012年1月	脳血管研究所 美原記念病院 脳卒中部門	2022年10月	カルフォルニア大学ロサンゼルス校
2009年4月	日本医科大学付属病院 神経内科 入局	2014年1月	日本医科大学付属病院 神経・脳血管内科 助教	2023年2月	日本医科大学付属病院 脳神経内科 講師
2010年7月	山形県北村山公立病院 神経内科	2019年4月	日本医科大学付属病院 神経・脳血管内科 病院講師		

講演1

今から始めよう!最新の片頭痛治療: これさえ知ればできる!

15:05-15:45



信州大学医学部 脳神経外科学教室 准教授 兼 脳血管内治療センター 副センター長 **花岡 吉亀** 先生

私は脳外医である一方で、頭痛診療にも熱心に取り組んでいる。片頭痛は疾病負担が高く、かつcommon diseaseであるため、適切な診断と治療スキルが広く医師に求められる。特に片頭痛治療にパラダイムシフトをもたらした治療薬に対する知識は必要不可欠であり、診察する医師によって頭痛患者の運命を決する時代となった。今や片頭痛はコントロール可能であり、頭痛診療は「医師」としての「存在意義」を肌で感じることができる魅力あふれるサブスペシャリティーとなった。本発表では、片頭痛治療の最新知識と実臨床に即した最新の治療方法を、頭痛診療初心者からワンランク上を目指す上級者まで理解・実践できるよう、分かりやすく具体的に解説する。

ご略歴

2005年 三重大学医学部 卒業 信州大学にて初期臨床研修	2017年 信州大学 脳神経外科学教室 助教 2020年 信州大学 脳神経外科学教室 講師	2023年 Interventional Neuroradiology at UCLA 's David Geffen School of Medicine 留学 信州大学 脳神経外科学教室 准教授
2007年 信州大学 脳神経外科学教室に入局	2021年 脳血管内治療センター副センター長兼務	

講演2

病態別アプローチで考える 痛みの診断と治療

15:55-16:35



札幌医科大学医学部 麻酔科学講座 講師 **澤田 敦史** 先生

痛みは組織損傷と関連した感覚かつ情動の不快感な体験である。痛みの慢性化には器質的变化に加えて末梢神経・中枢神経の可塑的な変化が関与しており、その病態は複雑である。ペインクリニック診療においては痛みの局所的な評価だけではなく、患者の生物社会的な要因に応じた様々な治療アプローチを組み合わせた集学的治療が重要である。慢性疼痛の集学的治療の本幹は薬物療法であり、薬物療法が無効あるいは忍容性が低い場合に、神経ブロックや脊髄刺激療法を組み合わせる治療を行う。本講演では侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、痛覚変調性疼痛の3つの病態について概説し、病態別アプローチで考える薬物療法を紹介する。

ご略歴

2005年 札幌医科大学医学部 卒業 2007年 札幌医科大学医学部麻酔科学講座 入局 2014年 札幌医科大学大学院医学系研究科博士課程 修了	2015年～16年 カリフォルニア大学サンディエゴ校麻酔科学講座 Visiting assistant professor 2017年 札幌医科大学医学部麻酔科学講座 助教 2020年12月～現在 札幌医科大学医学部麻酔科学講座 講師
--	---

講演3

骨粗鬆症の治療戦略 ～診断・薬物治療のポイント～

16:45-17:25



長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 整形外科学 講師 **千葉 恒** 先生

現在、骨粗鬆症治療薬には数多くの製剤が存在し、臨床現場ではその選択に悩むこともあります。主に使用されているものとして、デノスマブ、ロモソズマブ、PTH製剤、ビスホスホネート、SERM、活性型ビタミンDの6種類が挙げられますが、各薬剤にはそれぞれ特徴と注意点があります。また、骨粗鬆症の治療において逐次療法は重要な項目となっており、近年のコンセプトは「骨折リスクの高い患者には、効果の強いAnabolic製剤から開始する」流れへと変わっています。本講演では、骨折リスクが高い患者に対する、効果的で安全な骨粗鬆症の治療戦略を整理させていただき、その中で骨粗鬆症治療薬の果たす役割と、使用上の注意点について、解説させていただきます。

ご略歴

2001年 長崎大学医学部 卒業 (MD) 2001年 長崎大学 整形外科学教室 入局 2003年 長崎労災病院 医員 (長崎県佐世保市) 2004年 五島中央病院 医員 (長崎県五島市) 2005年 大村市立病院 医員 (長崎県大村市) 2007年 長崎大学病院 医員	2011年 長崎大学大学院 医学研究科 修了 (PhD) 2011-13年 University of California, San Francisco 留学 (Department of Radiology and Biomedical Imaging, Prof. Majumdar Lab) 2013年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 整形外科 助教 2023年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 整形外科 講師
--	--

講演1

プレゼンの極意 — これぞ山下流 —

15:05-15:45



公益財団法人心臓血管研究所 名誉所長 **山下 武志** 先生

私のプレゼンテーションの基本は、昭和時代の教授回診で培った。これが本音だ。実は、医者は、知ってか、知らずか、毎日プレゼンをしながら生きる職業だ。同僚、先輩の医者、看護師に、あるいは他科の医者に症例のプレゼンをしているだろう。あるいは、患者や患者の家族に、病状説明というプレゼンをしている。教授回診時のプレゼンはその典型例にすぎない。そして、その延長線上に、院内での教育や発表、あるいは学会発表、講演などでのプレゼンがある。振り返ってみれば、私は37年間プレゼンをしてきた。今日は、この経験から得た私の極意を、後輩の皆さんに伝えようと思う。

ご略歴

1986年 東京大学医学部医学科卒業、東京大学医学部附属病院内科研修医 1988年 東京大学医学部附属病院第二内科入局 1994年 大阪大学医学部第二薬理学講座 1998年 東京大学医学部附属病院循環器内科助手	2000年 (財)心臓血管研究所 2011年 (財)心臓血管研究所所長・付属病院長 2014年 (公財)心臓血管研究所所長・CVI ARO Chairman 2023年 (公財)心臓血管研究所名誉所長
--	---

講演2

臨床研究の進め方 ～ビギナーが失敗しない為に～

15:55-16:35



医療法人博善会 理事 / 順天堂大学 革新的医療技術開発研究センター 特任准教授 **長尾 雅史** 先生

2018年の臨床研究法の施行や2021年の人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の施行などにより、臨床研究をとりまく環境は著しく変化しています。統計・倫理・法令・保険・資金・データの信頼性・ICTなどに対する知識もこれまで以上に必要になってきており、これまで以上に入念な研究計画が必要となっています。医師のみで臨床研究を行うには限界があり、適切な研究チーム構築と運営が必要です。本講演では臨床研究の現状とTips・ピットフォールなどについてお話しします。

ご略歴

2002年3月 順天堂大学医学部医学科 卒業 2002年5月 順天堂大学 整形外科・スポーツ診療科 入局 2010年3月 順天堂大学 整形外科・スポーツ診療科 医学博士 2013年7月 日本学術振興会 海外特別研究員 米国ハーバード大学 2016年7月 順天堂大学 整形外科・スポーツ診療科 助教	2017年12月 順天堂大学 革新的医療技術開発研究センター 助教 2019年4月 順天堂大学 臨床研究・治験センター プロジェクトマネジメントユニット長 2020年8月 順天堂大学 臨床研究・治験センター 臨床研究統括オペレーション統括室 室長 2023年3月 順天堂大学 革新的医療技術研究センター/整形外科/AIセンター 特任准教授
--	--

講演3

30分で語る!臨床に必要な統計の知識 (論文読み込み編)

16:45-17:25



慶應義塾大学 循環器内科 専任講師 **香坂 俊** 先生

臨床研究の論文を読む機会が多くなっています。本セッションでは前向きのと後ろ向きの臨床研究、それぞれのスタイルの論文を読む際に「臨床家として」知っておきたい知識を紹介します。30分という限られた時間ではありませんが、ぜひ聞いた翌日から生かしていただけるような内容を用意し、最後の10分の質疑応答では皆さんと日々困っていらっしゃる場所を議論していきたいと思っています。どうかよろしく願い致します。

ご略歴

1997年 慶應義塾大学医学部 卒業 1997～1999年 在横須賀米軍病院・国立国際医療センター (Department of Radiology and Biomedical Imaging, Prof. Majumdar Lab) 1999～2008年 Columbia University 内科 Resident /Chief Resident Baylor College of Medicine 循環器内科 Fellow Columbia University 循環器内科 Faculty	2008年以降 慶應義塾大学病院 循環器内科 Faculty 防衛医科大学・東京医科歯科大学 非常勤講師 東京大学医学系大学院医療品質評価学講座 特任研究員 日本医療開発機構 (AMED) Program Officer・評価委員 Stanford 大学循環器内科 訪問研究員
---	--